

事業所番号	1590400188
事業所名	あさひ共生福祉会 グループホーム裏館倶楽部
自己評価作成日	令和5年 2月1日
運営推進会議開催日	令和6年 2月21日
外部評価作成日	令和6年 3月1日
提出日・公表日	令和6年 3月28日

凡例
A. 十分にできている
B. ほぼできている
C. あまりできていない
D. ほとんどできていない

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B. ほぼできている	理念を周知し共有できているが、実施出来ていない点もある。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	C. あまりできていない	地域の方を対象に施設の見学会や説明会の機会を設けた。参加者がいなかったが、今後もそういった機会を設け、地域との連携を図って行きたい。	・日々の業務もあり大変だと思うが、情報発信の機会を増やす活動をしてはどうか。 ・地域包括センターの方と力を合わせて地域の方への施設見学をしてみてもどうか。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	B. ほぼできている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催しており、会議での意見を現場に伝えている。	引き続き情報共有を行って欲しい。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	B. ほぼできている	運営推進会議や市役所への訪問・電話連絡での報告や相談を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	十分に出来ていると思うので、このまま継続して欲しい。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B. ほぼできている	年に2回、身体拘束についての研修を実施し、職員全体が身体拘束禁止の意識を持っている。		B. ほぼできている	
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	B. ほぼできている	高齢者虐待防止についての研修を行っている。利用者様へ不適切な対応があれば注意し合える関係性を築けている。		A. 十分にできている	

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
7	権利擁護に関する制 度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、それら を活用できるよう支援している	C. あまりできていない	権利擁護について学ぶ機会がなく、知識少 ない。			
8	契約に関する説明と 納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用 者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な 説明を行い理解・納得を図っている	B. ほぼできている	契約等の際には、面談や紙面等 ご家族への説明を行っている。			
9	運営に関する利用 者、家族等意見の反 映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職 員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それ らを運営に反映させている	B. ほぼできている	運営推進会議でご家族からの意見や 要望を伺う機会を設けている。また、苦情等 の窓口を外部に設けている。		B. ほぼできている	
10	運営に関する職員意 見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意 見や提案を聞く機会を設け、反映させている	B. ほぼできている	日々のカンファレンスや事業所会、必要に 応じて個々に面談を行い職員の意見や提案を 聞く機会を設けている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って働 けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B. ほぼできている	・年2回の人事考課で個々の能力や努力を 把握している。 ・有給を取得しやすい環境が整っている。		B. ほぼできている	
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受 ける機会の確保や、働きながらトレーニングし ていくことを進めている	B. ほぼできている	法人内外の研修に参加する機会がある。		B. ほぼできている	
13	同業者との交流を通じ た向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相 互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向 上させていく取り組みをしている	B. ほぼできている	法人内での合同研修や業務の応援等で交流で きており学びの場にもなっている。			
14	本人と共に過ごし支え あう関係	職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築い ている	B. ほぼできている	職員も共同生活の一員と意識し、関係を築く よう努力している。			

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
15	馴染みの人や場との 関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	B. ほぼできている	感染症予防の為ご家族との外出や 面会に制限がある中で出来る事を模索し 支援している。	現状の対応をしながら、段階的に面会の制限 の緩和も考えてみてはどうか。		
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一 日の過ごし方の希望や意向の把握に努めて いる。	B. ほぼできている	できる限り一人ひとりの意向に添える様、職 員間で情報を共有している。			
17	チームでつくる介護計 画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり 方について、本人、家族、必要な関係者と話 し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、 現状に即した介護計画を作成している	C. あまりできていない	新たな要望や状態変化に十分な対応ができて いないため、計画作成担当者を中心に モニタリングやカンファレンスの流れを 再確認中。	状態変化は要介護度にも影響する事もあるの で、十分な対応を心掛けて頂きたい。	C. あまりできていない	
18	個別の記録と実践へ の反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有 しながら実践や介護計画の見直しに活かし ている	C. あまりできていない	日々の生活の様子や状態変化を記録している が、職員間での情報共有が十分に出来ていな い事がある。		C. あまりできていない	
19	一人ひとりを支えるた めの事業所の多機能 化	本人や家族の状況、その時々にも生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉われ ない、柔軟な支援やサービスの多機能化に 取り組んでいる	B. ほぼできている	本人のその日の気分や状態の変化に 柔軟に対応し支援できている。	十分な対応・支援が出来ていると思う。 このまま続けて欲しい。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を 把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全 で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援 している	B. ほぼできている	理美容院や病院との連携を図り、 豊かな暮らしができるよう支援している。	引き続き支援して欲しい。		
21	かかりつけ医の受診支 援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の 関係を築きながら、適切な医療を受けられる ように支援している	A. 充分にできている	入居後もかかりつけ医に 受診できるように支援している。			
22	入退院時の医療機関 との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるよ うに、病院関係者との情報交換や相談に努め ている。あるいは、そうした場合に備えて病院 関係者との関係づくりを行っている。	B. ほぼできている	入院した際、情報の提供や入院中の 様子の確認等を行ない、病院関係者との連携 を図っている。		B. ほぼできている	

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	B. ほぼできている	入居契約時から終末期についての意思確認を行っているが、状態の変化があればその都度家族や本人への説明や意思を確認している。 今年度、1名の看取り支援を行った。		B. ほぼできている	
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B. ほぼできている	年1回のAED研修や事故発生時のフローチャート等を作成し備えているが、定期的に手順などを確認・共有する場があると良い。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	C. あまりできていない	年2回の避難訓練を行っている。 今後、地域との協力体制の構築が必要。 火災訓練の他に地震想定訓練も必要と考えている。	訓練時にマニュアルの見直しを行って欲しい。 また、いざとなった時は地域の協力も重要になってくると思う。	C. あまりできていない	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B. ほぼできている	プライバシー保護に関する研修を実施し、一人ひとりの人格を尊重するよう意識し対応をしている。		B. ほぼできている	
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B. ほぼできている	一人ひとりの希望や意向、ペースに合わせた支援を行なっているが、職員の都合に合わせてしまう事もある。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 充分にできている	好みの食事を取り入れたり、食事準備や片付けをして頂いている。		A. 充分にできている	
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	B. ほぼできている	一人ひとりの食事や水分摂取量を把握し、支援できている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	B. ほぼできている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの状態に合わせた見守りや介助が出来ている。 また、必要に応じて歯科往診を依頼し口腔内の清潔保持を心掛けている。		B. ほぼできている	

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B. ほぼできている	一人ひとりの状態に合わせた対応を心掛けているが、自立に向けた支援が充分にできていない。		B. ほぼできている	
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	B. ほぼできている	だいたい曜日は決まっているが、希望に合わせて柔軟に変更している。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	B. ほぼできている	ご本人の体調や気分に合わせて支援を行っている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	B. ほぼできている	薬の目的や用法を理解しており、副作用や症状の変化があれば状態を記録し共有している。また、変化があった場合は必要に応じて主治医・看護師・薬局への状態報告を行い指示を仰いでいる。		B. ほぼできている	
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	C. あまりできていない	一人ひとりに合わせた役割や楽しみの提供は出来ておらず、今後の課題としている。	・一人ひとりに支援する事は大変だと思うので、少人数で出来る物を考えてはどうか。 ・傾聴ボランティアを導入してみてもどうか。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	C. あまりできていない	感染症予防の為、思うように外出が出来ていないが、出来る事を模索しながら支援していきたい。	感染対策をしながら、引き続き支援していきたい。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	D. ほとんどできていない	ほとんどのの方がお金を所持していない。お金を使う場面もない。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B. ほぼできている	希望に応じて電話を使用できるように支援している。			

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	B. ほぼできている	季節が分るような装飾や、中庭での野菜や植物の栽培を行い、居心地の良い空間づくりを心掛けている。		B. ほぼできている	
IV. 本人暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	C. あまりできていない	できるだけご本人の意向に沿った暮らしが提供できる様支援しているが、十分ではない。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	B. ほぼできている	ご本人の生活歴や暮らしの習慣など、職員間で共有している。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	B. ほぼできている	職員の朝・夕の申し送りでご本人の状況を把握し、ケア・支援に繋げている。		B. ほぼできている	
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	B. ほぼできている	ご本人のペースを大切に、今までの習慣にあった生活が出来るよう支援している。			
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	B. ほぼできている	今までの生活で使用していた馴染みの物を持って頂いている。		B. ほぼできている	
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができている	C. あまりできていない	感染症予防の為、なかなか外出する事が出来ない状況であるが、出来る事を模索しながら支援して行きたい。	感染対策をしながら引き続き支援して欲しい。		

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述 (具体的な実施状況など)	現状の課題や質の向上に向けて運営推進 会議で話しあった内容	外部評価	記述(新たな課題、改善点など)
46	本人が持つ力の活用	本人は、自分ができること・できないこと、わか ること・わからないことを踏まえた、役割や、楽 しみごとを行うことができている	B. ほぼできている	食事の準備や後片付け、 洗濯たみなどの役割やレクリエーションな どに参加して頂いている。			
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと 時や、活動場面を日々の暮らしの中で得るこ とができている	B. ほぼできている	利用者様同士や職員との談笑や 得意な家事の手伝い等を行っている。		B. ほぼできている	
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関 わったり、交流することができている	D. ほとんどできていない	地域の方との関わる機会はないが、今後地域 との交流が出来る場を設ける。	地域の行事に参加する等、施設外での交流も 考えてみてはどうか。		
49	総合	本人は、このGHIにいてことで、職員や地域 の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々を おくることができている	B. ほぼできている	地域の方との交流は出来ていないが、職員と の関わりにより安心して生活出来ている様に 感じる。	利用者様との信頼関係は大切だと思う。 引き続き安心できる支援をお願いしたい。	B. ほぼできている	

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	17	利用者の状態変化に応じて適切な時期に担当者会議が出来ていない。	状態変化に応じての個人カンファレンスの開催が実施でき、カンファレンスの内容が職員に周知できるように記録に残す。	計画作成担当者が中心となり、居室担当者に利用者様の状態について聞き取りを行い、カンファレンスが必要だと判断したら早期にカンファレンスを開催する。	3ヶ月
2	18	日々の様子やケアの実践は出来ているも、気づきや工夫の取り組みが弱い。 問題に対しての情報共有、モニタリングが実践出来ていない。	個別記録を明確にし、モニタリングの実践や職員間の情報共有を行う事で利用者様の見直しを図る事ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・記録の明確化 ・定期モニタリングの開催、情報共有を行う。 ・意見等を話しやすい環境を整備する。 	6ヶ月
3	25	年2回の避難訓練を行っている。 今後、地域との協力体制の構築が必要。 火災訓練の他に地震想定訓練も必要と考えている。	地域の住民との交流を図り、有事に助け合える関係性を築く。 また、BCPを活用した訓練を行なう。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の見学説明会や夏祭り等を開催し、あさひ共生福祉会のPRを行う。 ・全職員がBPCを理解し有事の際に活用できるよう、研修を行う。 	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。